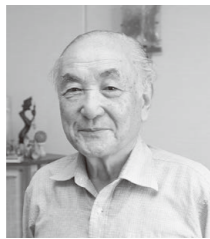


## 子どもの頃の思い出 が今も大事に保存さ れていてうれしい

たけうち けいいち  
竹内 桂一さん



私は10歳ぐらいの時（昭和18～19年頃）、旧大和田銀行本店本館のある通りに住んでいました。当時は家の近くに豆腐屋や傘屋、自転車屋などがあって、好奇心旺盛な私は、近所を歩いてはお店の仕事の様子を見て回っていました。ある日、近所を散策していると、銀行にエレベーターがあることに気づき、これは乗ってみなきゃしょうがない、となって自分で動かしてみました。初めて動かしたときは自分で動かすのが楽しくて、何回か上がったたり下がったりを繰り返したと思います。

当時のエレベーターが機械遺産に認定されたということで、子どもの頃の思い出のひとつが、今も大事に保存されていることをうれしく思います。

## 長い年月を経ても、 変わらない物を見る ことができ幸せ

わだ ちえ  
和田 智江さん



私は18歳から24歳（昭和20年～26年頃）の時、この建物（市立博物館）で銀行員として働いていました。当時はエレベーターは珍しいもので、他にはどこにもありませんでした。

最初は先輩にエレベーターの乗り方を教えてもらいました。スピードは速いし、階段を上らなくてもいいので、便利なものだなと感じたように思います。主に銀行員が1階の営業室と2階の会議室を往来するのに使っていて、窓口業務を行っていた私自身は、頻りに使うことはありませんでした。

エレベーターも含めて、当時働いていた建物が今も残っていて、長い年月が経った今も同じ建物を見ることができて、私は幸せです。

## ここがスゴイぞ！博物館のエレベーター

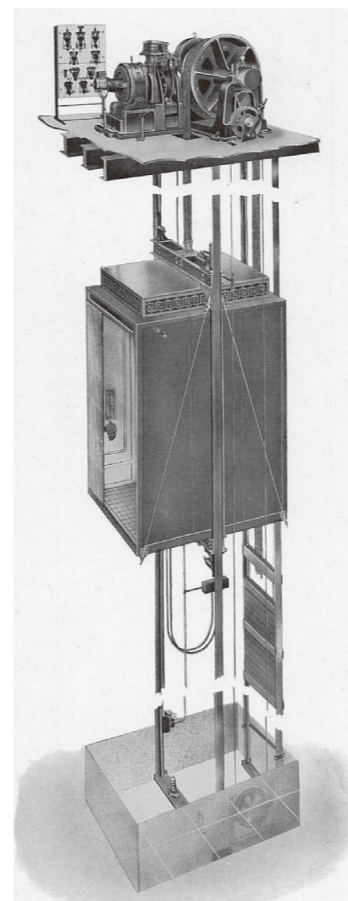


## 日本のエレベーター造りの 原点を語る貴重な遺産

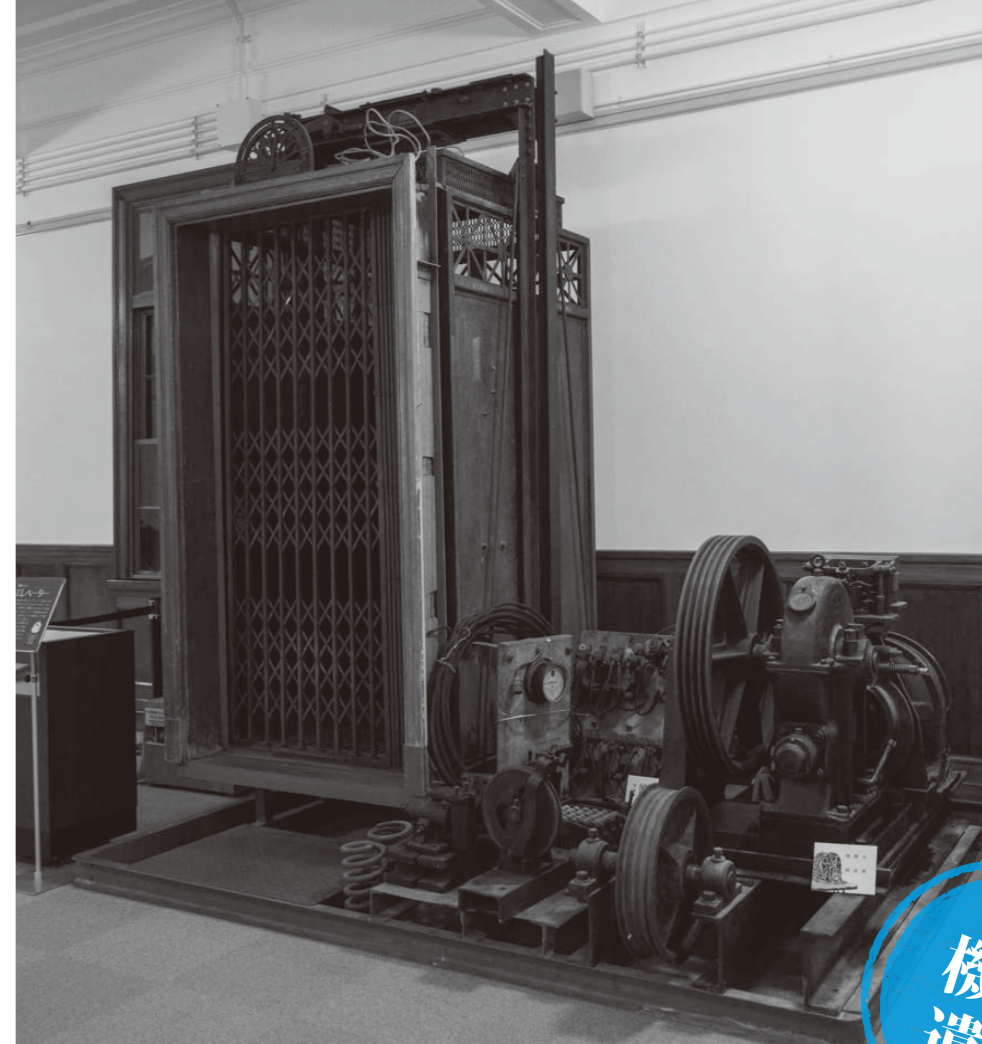
富山県立大学  
工学部知能ロボット工学科  
かみや かずひで  
教授 神谷 和秀さん

所蔵されているエレベーターは、我々が行った平成30年（2018年）の調査によれば、現時点で存在を確認された最も古い日本製の電動式乗用エレベーターとなります。また、所蔵品は昇降路から取り外されているものの、約100年前の原型を留める形で一式が残っており、日本のエレベーターの歴史を語るうえで、極めて重要な価値があると言っても過言ではありません。

最近、日本のメーカーが中国のビルに納入したエレベーターを世界最速としてギネス世界記録に認定されたことがニュースになりました。大正期からエレベーターの国産化を目指し、このように世界に誇れるまでに発展した日本のエレベーター技術の原点が所蔵品にはあると言えます。



▲当時の日本エレベーター製造  
カタログ掲載の昇降機断面図\*



▲機械遺産に認定された敦賀市立博物館所蔵のエレベーター。人を乗せるカゴ（写真左）と、カゴを昇降させるためのワイヤーの巻上機（同右）などが残されている。

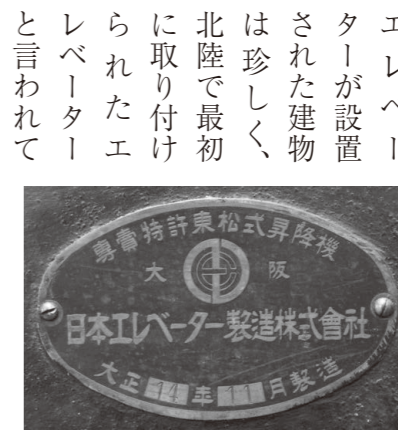


# 敦賀に残る昇降機 機械遺産に認定

## 国産化黎明期の昇降機

8月、東京都で行われた機械遺産認定表彰式にて、敦賀市立博物館所蔵のエレベーターが「国産化黎明期の乗用エレベーター」として機械遺産に認定されました（黎明期とは「新しい文化・時代などが始まるうとする時期」という意味）。

機械遺産とは、『歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えること』を目的に、創立122年の歴史を誇る一般社団法人日本機械学会が認定するもので、今回の認定も含めて、全国で99件が認定されています。今回認定されたエレベーターは、旧大和田銀行本店本館（現在の市立博物館）が竣工した昭和2年（1927年）当初から設置されていたものです。当時、



▲巻上機の銘板。「大正14年11月製造」の文字が見える。

エレベーターが設置された建物は珍しく、北陸で最初に取り付けられたエレベーターと言われています。明治から大正にかけて日本各地に設置されたエレベーターは外国製が多い中、大和田銀行には、国産の日本エレベーター製造株式会社製が取り付けられました。

大和田銀行の創業者・二代目大和田庄七は、古代より海と陸の交通の中継地点として栄え、国内外より多くの人が訪れた敦賀における迎賓館的な役割を、自らの銀行建築に託したと言われています。当時最新の機械技術を結集した国産エレベーター

が設置されたのは、お客様の利便性の向上とともに、我が国の技術を国内外に宣伝するなど、様々な意味を込めた「おもてなし」のためでした。

## そして、次世代に伝える

大和田銀行本館本店の建物は戦後、三和銀行敦賀支店、その後の福井銀行敦賀港支店としての利用を経て、昭和52年（1977年）に敦賀市に寄贈されます。翌年、歴史民俗資料館（後に敦賀市立博物館に名称変更）として開館する際、既に動かなくなっていた

エレベーターは入れ替えられました。その際、当初のエレベーターは3階に保存展示されることになりました。

そして、現在——。大正、昭和、平成という時代を経て、市立博物館に残されたエレベーターは、日本が歩んできた近代化の歴史を物語る優れた機械遺産の一つとして認定されました。エレベーターは、大正・昭和初期をうかがい知ることができる貴重な遺産として、これからも次の世代に伝えられていきます。